

サロンのあべの

一九九一年九月三日第三種郵便物承認毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行

〈サロン・あべの〉4月の出会い

名曲の楽しみ方

さまざまなエピソードを交えて

爽やかな新緑の日を迎えた平成24年4月19日(土)午後1時〜4時、育徳コミュニケーションセンターの研修室で、塚本真規さんをお迎えして「名曲の楽しみ方」さまざまなエピソードを交えながら」と題して、お話をしていたきました。塚本さんは、相愛高校・大学音楽部を卒業後、フランスのパリやイタリ

アのミラノで音楽の研鑽を積まれました。帰国後は、国内外を問わず演奏活動をしながら、後進の指導やクラシック音楽の普及のために日々お忙しく過ごされています。

そのご活動の一つに、名曲の演奏だけでなく作曲家のエピソードや、時代背景などもお話しされるコンサートがあります。難しいと思われるクラシック音楽も作曲家の身近な話を聞くと、気軽な気持ちで楽しむことができます。

身が厳しい先生に指導していただいたから、海外留学の生活も乗り越えられたし、そういう生活をさせてくれた親にも感謝の気持ちを持つことができたと言っておられました。

何が大切か考えてほしい、今ある生活は家族の支えや教師、友人など多くの見守りがあるからだということが分ければ、心に安心感が生まれ、気持ちが落ち着いてきます、と。



クラシック音楽

クラシック音楽というと、ベートーベンやモーツァルトなどを思い浮かべるかもしれないが、ベートーベンの私生活は大変なもの。耳が聴こえないということは知られていても、作曲をしている間はトイレに行く時間も惜しんでいた、ということを考えれば生身のベートーベンを感じながら運命や田園を聴くのも趣きがある。

クラシックだからと難しい曲から入るのではなく、初めはなじみのある曲を聴いて、曲に興味を持つのが良い。今日は誰もが聴いたことがある「カルメン」の曲を例にしてお話をします。と、言われご持参のCDカセットにスイッチオン。

「カルメン」は、フランスの作曲家ジョルジュ・ビゼー（1838年～1875年）が、フランス語による4幕のオペラを作曲。

○第1幕・・・おなじみの前奏曲

スペインのセリビアのタバコ工場の女工である「カルメン」は、オペラでは珍しい主役でありながらソプラノでなく、低いメゾソプラノやアルトで歌う。

タバコ工場から出てきたカルメンは、女工仲間と喧嘩をして牢屋に入れられた。その身柄を護送する衛兵がドン・ホセ（テノール）。ドン・ホセには田舎から出て来た許嫁のミカエラ（ソプラノ）がいる。青色の民族衣装を着ている。まだドン・ホセに逢えずにいる。カルメンはドン・ホセに酒場で落ち合う事を約束をして、護送中に逃がしてもらおう。

○第2幕・・・闘牛士の歌

ドン・ホセは田舎から出てきたミカエラに会うが、カルメンに心を奪われた彼は、酒場に行く。が、カルメンの心は闘牛士のエスカミーリヨに移っていた。カルメンにふられたドン・ホセは行き場がなく、密輸団の仲間に入ってしまう。

○第3幕・・・ミカエラのアリア

ジプシー占いをカルメンも占いをすると、不吉な占いが出る。ミカエラはドン・ホセに母親が危篤であると伝え説得するが、ドン・ホセは聞かず、そこに闘牛士エスカミーリヨがやってきて決闘になる。ミカエラは切ない気持ちで歌う。ドン・ホセはカル

メンの気持ちを引きとめようとするが、カルメンの気持ちは離れていた。母親のことを知ったドン・ホセは、カルメンを想いながらも盗賊団から抜ける。

○第4幕

闘牛士エスカミーリヨと恋人どうしになったカルメン。闘牛場に入ったエスカミーリヨを見送り1人になったカルメンの前に、ドン・ホセが現れ復縁を迫る。が、カルメンは断り「殺せばよい」と言う。言われたドン・ホセはカルメンを刺し殺す。

登場人物の服装なども出身地や職業、地位などが分かる。音楽もメロディーだけでなく楽器の響く音にもいろいろな暗示や感情があることなど、教えていただきながら「カルメン」4幕の音楽を聴かせていただきました。音楽の奥行きと幅の広さを知った（サロン・あべの）4月の出会いでした。

（参加者15名・文責 富田慶子）

美智子のこんな話

岸田美智子

要注意！PT案

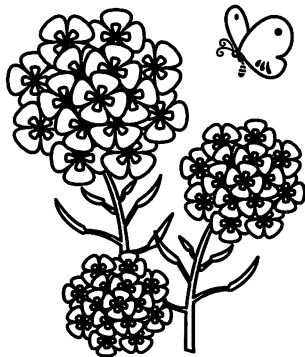
今、マスコミでもたびたび登場する橋下市長は、とても行動派だと私も思っています。市長は、とても市長の元で、「施策・事業の見直し（試算）」を進めていく改革プロジェクトチームの試算（PT試算）が、動きだしています。その中で、いろいろな案が出ていますが、障害者の生活にも大きな影響を及ぼす改悪案が出ているので、びっくりです。例えば、重度障害者に適応されていた水道料金の減額制度なども、平成25年度に廃止。住吉区長居にある障害者スポーツセンターも、平成28年に廃止という案が出ています。

長居の障害者スポーツセンターは、設立

されて、もう38年にもなるそうです。私が、このスポーツセンターの設立を聞いたのが、学生時代だったので、懐かしく思い出しました。確か日本でもいち早くできた、障害者対象のスポーツセンターだったと思います。丸いエレベーターがあり、珍しい形だったので、記憶に残っています。現在は老朽化の問題が出てきているようです。この長居のスポーツセンターは、此花区にある舞洲障害者スポーツセンターなどとは違い、地下鉄御堂筋線「長居駅」からは至近距離にあり、駅にはエレベーターや車イストイレなどが設置されているので、住吉区内に限らず、車イスなどの障害者の人たちには、とっても使いやすい立地条件にあります。それに、例えばボウリングには、ボールを投げられない障害者には、ボールを転がすためのスロープ台がありますし、床に座り込んで投げたりできるレーンもあります。他にも確か、息で出来る卓球(?)もあったと思います。この様により重度な障害者でも、楽しめるスポーツセンターは、まだまだ少ないと思います。もちろん一般のスポーツセンターもこのような設備があれば一番いいのですが、まだまだほとんどない

のが、現状です。このように障害者の余暇活動を長年支えてきた、長居のスポーツセンターを今後もぜひ、存続させてほしいものです。

PT試算は、他の内容を見ても予算削減しか考えていないような気がします。このようなPT案にみなさんも、要注意です！
どんだん声をあげていきましょう！



実態との違い

自死遺族たちの話を聴く機会が多いのだが、驚くのはマスコミから受けるイメージと遺族たちのいう実態との違いである。マスコミだけではなく、しっかりとした客観的な情報に基づいているとされる研究論文でさえ、彼らの実感とはかけ離れた内容なのである。

たとえば、遺族への支援について自分の実践も含めて語り、論文にまとめている人の名前を出して、その人についての意見を求めると、即座に「遺族を蔑（さげす）んでいる人です」と返された。それも複数の遺族から、同じような言葉が戻ってくると思えない論文だからだ。そんな人が書いたとは思えない論文だからだ。自死遺族の問題について論文を書きたいという学生に、「どんなふうを書いていきたいの？」と聞くと、「〇〇県の事例を取り上げたい」というから、「ああ、〇〇県ね。たしかにいろん

な論文でも優れた実践事例としてよく紹介されているね。でも、遺族の人たちは、あそこほどひどいところはないと言っているよ」と私が答えると、学生はびっくりしている。

びっくりするのも無理はない。私だつて驚いている。書かれていることと、そこにいる人々が感じていることの間に大きな距離があるのだ。しかし、こういうことは自死遺族の場合のみに限るのか。第三者的に書いた人の文章が、当事者の実感と合わないということは、ある意味では当然予期できることだ。たとえば経済状況についての評論の内容が、ビジネスの世界に生きる人たちの実感とは違っているということは、あつても不思議ではない。

しかし、この場合、覚えておかなければいけないことが二つある。一つは自死遺族にかかわる実践の報告は、客観的な報告という装いをもちながらも、実際には執筆者自身の実践を書いたものが多い。その結果、どうしても自画自賛的なものになりがちである。

そうした「自画自賛的な性格」は、ある意味では仕方が無いことだ。つまり、その支援は、対象者への支援であるが、同時に支援者自身の生活の基盤になっている。言い換えれば「人を助けていて喜ばれています」と言わなければ、

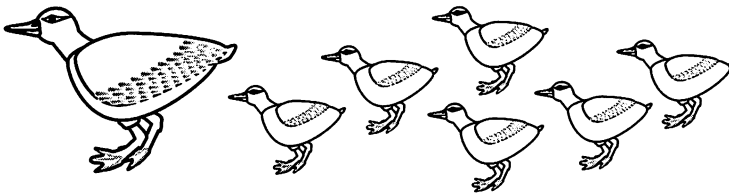
その人は職を失ったり、補助金を得られなくなったりしてしまう。

企業が自分の商品の価値を宣伝しているのと同じだと考えて良い。「これさえ飲めば、健康になれます」と書いてある広告を見ても、それを百パーセント信じる人はいないだろう。同じようにNPO法人やその関係者が、実践報告として書いていることもそのまま信じてはいけない。それは寄付金や補助金集めのために自分たちの実践をPRしているだけかもしれないのだ。

さらに、この場合に覚えておかななくてはいいない二つ目のことは、支援の受け手のほうに発言権が十分に認められていないことである。私を知っている遺族は、どんどん社会的にも発言しているのだが、「そんなに社会に出ていく遺族は例外だ」と言われ、その発言も「例外」扱いだ。「自分たちが支援しているのは、発言できない人たちだ」と言い、それを理由に実際に発言している人たちを無視して、発言のない「多数の人たち」の代わりに自分たちは発言しているのだと主張する。そしてその「発言のない多数の人たち」は、自分たちの支援をとっても感謝してくれている、というわけである。

こういう欺瞞的な構造は自死遺族への支援に限ったことではないだろう。社会的に抑圧され

てきた人を支援する場合、ありがちな構図だと
思うのである。(知)



晴れのち晴れ

稲垣 恵雄

■朗読と演奏

去る3月11日午後2時から奈良県立図書情報館で「東日本大震災復興支援チャリティ公演」(朗読と演奏の調べ)が開かれ、私も聞きに行った。

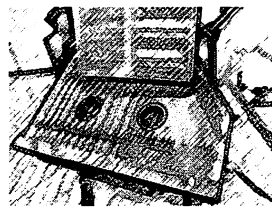
第1部は岩手県出身で高校の先生のすがわらてつお氏が朗読された。すがわら氏はおよそ40分にわたって数編の作品を朗読されたが、その中の宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」が岩手県独特の方言に感情を込めて話されたのには何とも言えない深い味わいを感じ、胸がじんと熱くなった。

すがわら氏の朗読が終わってまもなくすると、ちょうど1年前の東日本大震災の起

こった午後2時46分になった。その時間に司会者の合図で全員が起立して1分間の黙祷をした。私は黙祷をしている間に当時のことをいろいろ思いだし、亡くなった人々の冥福を祈った。第2部は奈良市在住で演奏者のいいだむつみ氏が、すがわら氏の朗

読「永訣の朝」や「賢治最後の手紙」などに合わせてフランシスターで奏でられた。

お2人の意気がピッタリ合っていたためにどの作品も耳に心地よくひびき、フランシスターのやわらかい音色が心に



しみわたった。

ちなみにフランシスターとは、古い弦楽器で旧約聖書の詩編の中にも登場する。

朗読と演奏が終わると、満員の客席から盛んに拍手が送られ、どの人も満足な表情で会場をあとにした。

家裁で★ アメリカ編★ 番外編

日本でも
いなくなると
外国に連れこ
いんのよ
に感化して
びすが



小2

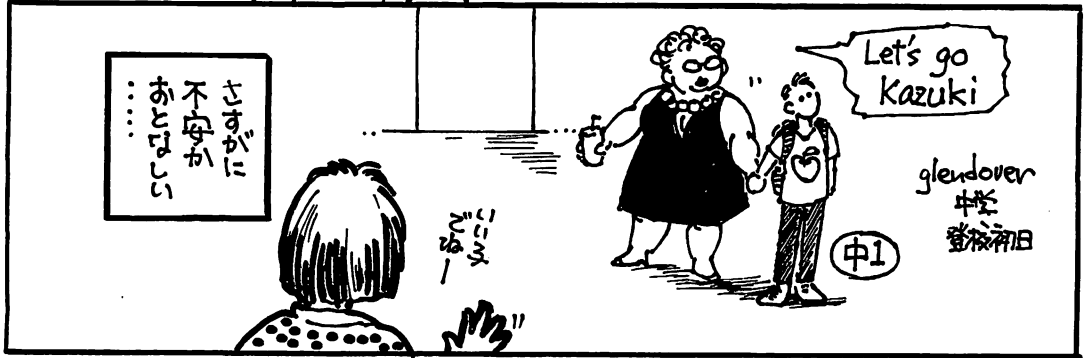
服に
名前と
TITANO



自閉症の
カズキ

JR 始発に
ゆきぎと
たのしの

小3



さすがに
不愉快
おとほし
...

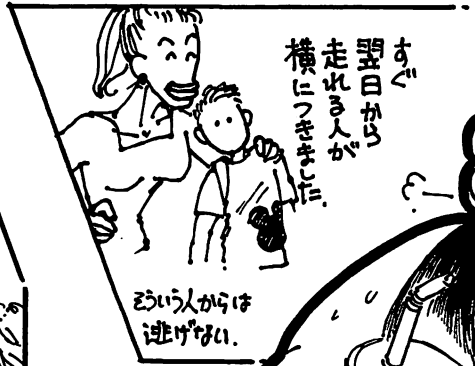
Let's go
Kazuki

glendover
中1
登校前日

中1



私が
帰るなり
校門を
逃げました
とか



翌日から
走りまわ
横につま
まされた

どうい
から
逃げた

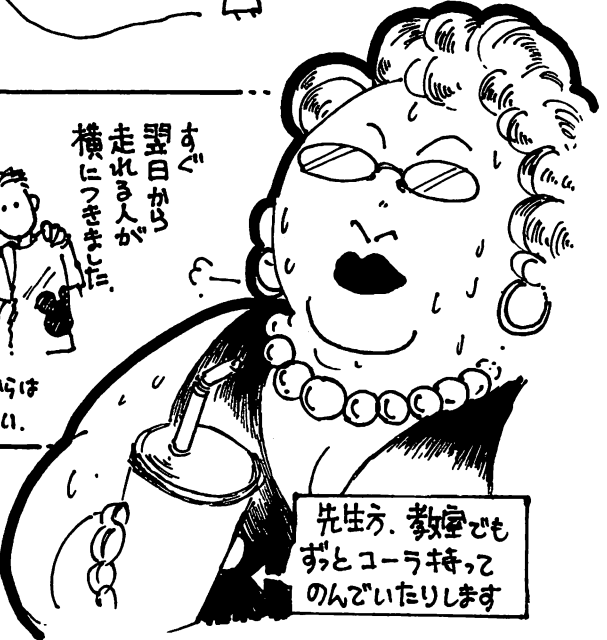


お母さん
逃げた
帰ってき
たよ

お母さん
逃げた
帰ってき
たよ

高3

お母さん
逃げた
帰ってき
たよ
by 中村がみ



先生方、教室でも
ずっとユーラキ、の
のんびりしています

サロンへのお便り

東 百合子

若葉の緑が美しい季節になりました。

いつも「サロン・あべの」紙をお届け下さいます。ありがとうございます。

「自助具の部屋の活動」をされている加藤様のお話、このようなお仕事を知りました。想像力をはたらかせて、その人に合った道具を作るのは大変と思いますがすごいです。

「晴れのち晴れ」の稲垣さん 切手のお話には、私も記念切手を求めているペンフレンドに出しています。昔は蒐集するのが楽しみでしたが、今はどんどん出るし貼るのが使うのが楽しみになりました。また、絵葉書を出すのが好きなので50円切手はどんどん使っています。

中村かずみさんのご家族で「アメリカ、ケンタッキー州滞在記」を興味深く拝読いたしました。お疲れさまでした。

いつも出会ひの案内を拝見し、一度参加したいなと思ひながら、こちらからでは無理ですね。

「サロン・あべの」紙を楽しみに待つておりますので、よろしくお願ひします。

サロン・あべの毎月の感謝

○カンパ、はがき、切手、お茶菓子、宛名シールのご提供等、ありがとうございました。

平岡太、福永洋、松村美鈴、宮崎喜代子・隆正、宮脇信子、森輝代、その他の方、(敬称略)

お詫びと訂正

「サロン・あべの」紙310号8頁に掲載しました「隣のテレビ」欄内で、王子書店の電話番号が間違っていました。正しい電話番号は、

06-6621-7003でした。

ご迷惑をおかけした皆様方にお詫び申し上げます。

お知らせ

<サロン・あべの>6月の出会い

○内 容：「家族でアメリカ！ケンタッキー州滞在記」の連載を終えて

○お客様：中村かずみ氏

○日 時：6月16日(土)午後1時～4時

○場 所：育徳コミュニティーセンター、
2階・研修室

[大阪市阿倍野区阪南町5-15-28

TEL06-6621-1901]

○会 費：なし

○問合せ先と申込み先：

TEL06-6691-1028 (富田慶子)



6月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」6月の出会い

日時：6月17日(日)午後1時30分～4時
内容：「おしぼりで可愛い子犬を作りませんか」
おしぼりを丸めて可愛い子犬を作ります。

進行：窪田新一氏(サロン淀川)

被災地宮城県に向向き、子ども達におしぼりで
作った子犬をプレゼントしてきました。

場所：「やすらぎ」大阪市淀川区三国本町2-14-3
会費：なし
問合せ先：淀川区社協TEL06-6394-2900

■「サロンにしよど」6月の出会い

日時：6月23日(土)午後1時30分～3時30分
内容：未定
場所：「ふくふく」西淀川在宅センター
会費：なし
問合せ先：中本TEL090-9864-9678

■「サロンにし」6月の出会い

日時：6月2日(土)11時～14時30分
内容：「障害者スポーツなどを楽しもう!!」
競技=ポッチャ、ふうせんバレー、卓球、
音楽体操、レクリエーションスポーツなど
場所：西区民センター1階ホール
[大阪市西区北堀江4-2-7]

参加費：なし、但し昼食・飲み物等は各自でご用意ください。
問合せ先：宮脇淳TEL090-3949-6973

■サロン「アイ」6月の出会い

日時：6月9日(土)午後1時30分～4時
内容：心の病について
ゲスト：高岡啓子氏(精神保健福祉相談員)
場所：「おかちやま」区社協、2階ボランティアルーム

[大阪市生野区勝山北3-13-20]

会費：なし
問合せ先：生野区社協ボランティアビューロー
TEL06-6712-3101

■「てくてくすみよし」4月の出会い

日時：6月9日(土)午前11時半～
内容：お好み焼きパーティ
場所：あびさんサロン
会費：1,000円
問合せと申込み先：山本篤江
TEL06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」6月の出会い

日時：6月3日(日)午後1時30分～4時
内容：「小さな朗読の会」
～参加型朗読劇「じごくけんぶつ」～
ゲスト：鶴見区視覚障害者朗読ボランティアグループ「ひ
かり」の皆さま
場所：鶴見区民センター3階
[大阪市鶴見区横堤5-3-15]
会費：なし
問合せ先：鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)
TEL06-6913-7070

■「サロンいたみ」6月の出会い

日時：6月16日(土)午後2時～
内容：ハワイアン演奏
ゲスト：ハワイアンキッツ
場所：伸幸苑 [伊丹寺本6-150]
会費：なし
問合せ先：安藤れい子TEL072-784-1718



<サロン・あべの>Vol.311 発行：平成24年(2012年)5月19日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆
事務局：〒545-0021大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの00950-9-26941
印刷：セルフ社〒546-0044東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophis.ac.jp/oka/salon/ 「サロン・あべの」でも検索できます